



PREX NOW

No. 183

April
2009

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

page 1 ●ニュース&レポート 1
2009年度事業計画

page 2~3 ●ニュース&レポート 2
マレーシア政府からの要望に応じて
3件の研修を実施

page 4 ●ニュース&レポート 3
西安の大気を守れ!

page 5 ●協力企業特集
近畿工業(株)／旭電機化成(株)
(株)WITHフローリング／(株)小堀

page 6 ●PREXだより
事務局ニュース、コラム、研修実績



途上国と関西にとって、
なくてはならない
存在になることをめざす。



ニュース&レポート ①

News & Report

2009年度事業計画

PREXは、設立19年を迎え、昨年までの研修参加者累計は、1万2千人となり、支援対象国は124カ国となりました。

訪日研修参加者を中心に、アジア・太平洋地域の13カ国・地域ではPREX同窓会が設立され活動しています。

2009年度は、受入研修26件、海外研修6件、交流事業3件、合計で35件の研修・交流事業を計画しています。そのうち、企画提案型事業は、19件、新規事業は2件です。本年度も途上国と関西にとって、なくてはならない存在になることを目指して、事業に取り組みます。関係各位のご支援、ご協力を引き続いてお願いいたします。



受入研修：2008年度 中小企業政策セミナー
(2008年6月)



海外研修：2008年度 ベトナム海外研修
(2008年10月)

	▼日程	▼研修名 (★ 企画提案型の事業 / ● 今年度新たに実施の事業)	▼内容
受入	2009.5~6	中小企業政策セミナー 上級コース	中小企業振興
	6	日本センタービジネス実務研修(中央アジア1)	経営管理
	6	日本センタービジネス実務研修(中央アジア2)	経営管理
	6~7	日本センタービジネスコース運営管理(中央アジア)	経営管理
	6~7	★ マレーシア行政初級管理職研修	経営管理
	7	インドネシア救急・災害医療	救急・大災害医療
	7	西安市水環境整備事業第四期 下水技術研修	環境
	8	アジア地域JICA災害ネットワーク	救急・大災害医療
	8~9	★ 中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興	地域振興
	9	日本センタービジネス実務研修(ベトナム)	経営管理
	9~10	救急・大災害医療	救急・大災害医療
	10	大阪府・上海市「省エネ・ESCO事業」	環境
	10	日本センタービジネスコース講師研修(ベトナム)	経営管理
	10~11	★ 中小企業政策セミナー 中級コース	中小企業振興
	10~11	★ マレーシア行政中間管理職研修	経営管理
	10~11	★ 中東地域観光開発	観光振興
	11	シリア総合的経営管理	経営管理
	11~12	南・東欧中小企業振興セミナー	中小企業振興
	11~12	★ 京都市・西安市草の根技術協力事業「西安市における大気環境改善」	環境
	2010.1~2	★ 中小企業政策セミナー 基礎コース	中小企業振興
海外	1~2	中央アジア経済団体強化	市場経済化促進
	2~3	★ ● 中米・対日貿易振興のためのキャパシティディベロップメント	貿易振興
	2~3	★ ● アフリカ地域 ものづくり中小零細企業の生産性向上	経営管理
	2~3	★ 中小企業政策セミナー アフリカコース	中小企業振興
	3	メコン地域観光振興	観光振興
	未定	★ 兵庫県・広東省草の根技術協力事業「資源循環社会における都市環境整備」	環境
	2009.7	★ 中国海外研修(知的財産権管理)	経営管理
	8	★ メキシコ海外研修(生産管理)	経営管理
交流	9	★ フィリピン海外研修(企業診断)	経営管理
	10	★ ベトナム海外研修	経営管理
	11	関西経済連合会アセアン経営研修30周年記念事業(インドネシア)	経営管理
	11	★ 大阪府・上海市草の根技術協力事業「省エネ・ESCO事業」	環境
	未定	★ 同窓会フォローアップ事業(中国・重慶)	経営管理
	未定	★ 同窓会フォローアップ事業(タイ)	経営管理
	未定	★ 同窓会フォローアップ事業(中央アジア)	経営管理



マレーシア政府からの要望に応じて3件の研修を実施

【マレーシア中間管理職研修／マレーシア初任行政官研修／マレーシア観光開発セミナー】

マレーシアのマハティール元首相が提唱したのは、工業化・近代化をいち早く推し進めた欧米諸国からではなく、自分たちと同じアジアである日本や韓国から、その経済発展を遂げた理由を学ぼうという、東方政策 (Look East Policy) である。技術といった面だけではなく、労働倫理や規律といった面も学ぼうという。この政策のもと、多くのマレーシア人が東方である日本に研修参加者として来日した。研修を通じて修得した知識・ノウハウが今後のマレーシアの社会・経済の発展に何らかの形に貢献することを切望する。



講義を受けるマレーシアの行政幹部ら…2008年度「マレーシア中間管理職研修」

《PREXの取り組み》

PREXでは、1997年にはじめて、東方政策の一環である「マレーシア経営幹部セミナー」を国際協力機構 (JICA) より受託した。マレーシアの各省庁の中間管理職クラスから、多い時には一度に40名が参加し、「人材育成とマルチメディア」などといったテーマで研修を実施した。同研修では合計で274名が参加した。

マレーシアの状況の変化により、またよりマレーシアの要望に応えるため、2006年には新たに「中間管理職研修」と「初任研修」の2研修が立ち上がった。マハティール元首相が日本から学びたいと考えた管理者層の育成である。

また、それとは別に、「観光振興コース」も実施した。マレーシアが観光産業を経済発展の柱とすべく力を入れていることから、日本の中央官庁のみならず、地方自治体の取り組み事例を紹介し、日本人観光客誘致のヒントを得るといったものである。

上記3研修について、今年度の様子を紹介したい。

学習意欲の高さに 圧倒された

マレーシア中間管理職研修

木々が色付き始めた11月中旬、マレーシアからの研修参加者19名は関西国際空港へ降り立った。日本人にとっては紅葉の楽しい季節であるが、年間平均気温26度の南国からやってくる研修参加者にとっては日本の11月の気温は身にしみたようである。マレーシアで用意してきた分厚いコートと手袋で完全防備の参加者もいれば、「こんなに寒いと思っていなかった。」と慌ててコートを買いにいく参加者も。

課長・部長クラスを対象に公募を行い、現地政府より選抜された平均年齢43歳、ほぼ全員が部長・部長補佐クラスの研修参加者が来日した。非常に明るい性格の方々と、日本で学べることは全て持って帰ろうという学習意欲の高さには圧倒された。各講義や訪問先では講師を質問攻めにし、質疑応答の時間はかなり余裕を持っ



最終日を迎えてコースリーダーのラウ教授 (前列中央) と共に笑顔の研修参加者。

て設定していたつもりが、「19名が質問するには少なすぎる。」とのご指摘もいただいた。このモチベーションの高さが近年の目覚ましい経済発展の原動力なのだろうと実感した。

19名中17名がイスラム教徒であり、食事とお祈りはとても重要な問題である。イスラム教徒の食事は豚肉厳禁等決まり事があり、お昼には必ずお祈りの時間が必要である。しかし、イスラム教徒の少ない日本ではイスラム教徒用の食事やお祈りについての知識はあまり普及していないのが現状である。筆者自身、イスラム教徒の研修参加者と出会うまで知識はほぼ皆無であった。今後ますます発展するマレーシアと日本とのパートナーシップを進展させるためにも、イスラム教の知識は必要不可欠だと感じた。

—国際交流部 部員 奥村 玲美

マレーシア中間管理職研修

- ◎実施期間 2008.11.10～28
- ◎研修参加者 マレーシアの行政機関に勤務する中堅幹部職員 19名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

麗澤大学国際経済学部 ラウ シン イー教授、松下幸之助歴史館、大阪国際大学法政経学部 谷川寛講師、PREXシニア専門家 杉本定夫氏、神戸市、人事院、ヒューマンロジック研究所、平和工業、姫路市、ダイキン工業、堀場製作所、ロイヤルホテル、豊中市、バナソニック 人材開発カンパニー

研修に参加した マレーシア行政官との ネットワークを大切に

マレーシア初任行政官研修

「マレーシア中間管理職研修」に引き続き、1月中旬、マレーシアの行政機関より初任行政官19名が来日した。マレーシアでは公的機関に就職する場合、大卒者は「初任行政官」として配属される。「初任行政官」とは課長補佐、チームリーダークラスのことであり、所属組織にもよるが、10年以上公職に就いた後、中間、上級行政官と位上げされる。

本研修では、「組織の中で初任行政官が果たす役割と必要な能力を理解する」というテーマを柱にすえ、初めてチームリーダーとして部下を持つ研修参加者に対して、各自の職場を客観的に見つめ、職場での課題を解決してもらうヒントを多く掴んでいただけるようなカリキュラム構成とした。初任行政官に求められる能力として、「仕事のマネジメント」、「人のマネジメント」と大きく二つにわけ、それぞれに経営マネジメント、組織理念の浸透、部下の育成、リーダーシップなどといった項目を設け、さまざまな企業、組織にそれぞれの項目に関する講義をいただいた。研修参加者には日本の企業・団体などのマネジメントについて理解を深めていただいたと確信する。最終的に40ページにわたるレポートをまと

め上げた。PREXでは2006年度から「中間管理職研修」、「初任行政官研修」と毎年40名程度の行政官を受入れ、本研修は3年目を終えた。マレーシア政府の今後のニーズにも注目しながら、この大きなネットワークを大事にしていきたいと考える。

—国際交流部 部員 西阪 三友紀



それぞれの職場での課題について意見を出し合う研修参加者ら。

マレーシア初任行政官研修

- ◎実施期間 2009.1.19～2.6
- ◎研修参加者 マレーシアの行政機関に勤務する初任行政官 19名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

麗澤大学経済学部 ラウ シン イー教授、PREXシニア専門家 杉本定夫氏、大阪国際大学法政経済学部 谷川寛講師、松下幸之助歴史館、奈良県立大学 松田幸夫客員教授、京都市東山区役所、アドベリー生産協議会、滋賀県高島市商工会、滋賀県高島市役所、旭電機化成、人事院、WITHフローリング、昭和電工、早稲田大学ビジネススクール経営専門職大学院(MBA) 梅津祐良教授、パナソニック 人材開発カンパニー、ロイヤルホテル、鴻池運輸

日本ファンになった研修参加者

マレーシア観光開発セミナー

実践事例を紹介することを主眼として、できるだけ多くの場所を訪問するカリキュラムを編成した。自らの目と耳で情報確認してもらうために大阪—都市型観光、京都—観光客誘致の販促、姫路—世界遺産の活用、奈良—町並み保存と観光客誘致などのテーマで地元の専門家のプレゼンテーションを聞いた上で、現場へ出向き、体験学習をした。

中でも、ハイライトは、赤穂温泉の和風旅館での体験学習—「日本人のもてなしの心を学ぶ」です。全員、和風旅館での宿泊は生まれて初めての体験。

浴衣・丹前を着て仲居さんの給仕による食事、温泉の露天風呂入浴、畳敷きの五人部屋で「ふとん」での就寝など、まさに「日本人になりきって」擬似体験をした。

特に入浴は「人前で裸を見せない主義」のマレーシア人にとって、最初は抵抗あったものの「案ずるより生むが易し」の例えどおり、事前にちゃんとしたオリエンテーションをしたのが、幸いして、終わってみれば、全員温泉を楽しんだようだ。打ち上げパーティでも、この体験が最も印象的とのコメントも聞かれた。

私にとってはPREXで3度目のマレーシア人対象の集合研修であった。20年前のマ

レーシア勤務時代に覚えたマレーシア語、土地勘、歌の数々を思い出して研修参加者との交流に努めた。研修参加者にとっても緊張がほぐれる時間だったようだ。ただ、研修参加者にとっては、食事の苦労が多かったのはお気の毒であった。JICAでの施設も含め、改善の余地ありとの感を強く持った。

帰国後、数名の研修参加者からメールもらった。皆、研修内容もさることながら、すっかり「日本のファン」になってくれたようだ。

—PREXシニアコースリーダー 井上 久生



奈良市で炭作りの現場を視察し興味津々。

マレーシア観光開発セミナー

- ◎実施期間 2009.1.19～2.6
- ◎研修参加者 マレーシアの観光振興分野における地方開発に携わる行政官 12名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

マレーシア政府観光局、名古屋大学日本語教育センター 桂井講師、JTBアジア関西支店、JTB西日本、大阪観光コンベンション協会、パナソニックセンター大阪、大阪水上バス、観光庁、日本旅行業協会、はとバス、クワアチア政府観光局、ウェプトラベル、江戸東京博物館、京都市、赤穂温泉 祥吉、姫路市商工観光局、姫路観光コンベンションビューロー、奈良まちづくりセンター、奈良市

2007年度「マレーシア観光開発セミナー」帰国研修参加者からのメッセージ



パウズイさん マレーシア キャメロンハイランド市の観光開発の責任者

キャメロンハイランド市は、マレーシアにある高原別荘地で、熟年日本人の長期滞在先として人気があります。私は、キャメロンハイランド市に多くの日本人が訪れるよう、市の観光促進事業に取り組んでいます。日本からの観光客は、現在大変多くなっており、この2月から3月には、滞在期間3ヶ月程度の日本人ロングステイクラブのメンバーが来て、ゴルフ、森林へのトレッキング、テニスなどをして過ごしています。

日本でのセミナーでは多くのことを学びました。帰国後、自分ができることをひとつひとつ実行しています

日本人観光客にとってはとても重要な観点である「清潔さ」を徹底する、地方公共団体に観光促進のために具体的な提案を行う(バス停やタクシーの停留所を増やしてもらう、地域のパンフレットを作成してもらう、イベントを企画してもらうなど)、観光客が滞在中に安全だと感じてもらえるような雰囲気を作る、観光に携わるマレーシア人に向けた日本語クラスを企画するなどといったことです。

日本人ロングステイクラブとともに、日本からの観光客を増やすために、様々なことに取り組んでいます。そのお蔭で私の所属するゴルフクラブのメンバーも日本人が20人増えました。これからも宜しくお願いします。



研修の日程で、神戸市を訪問し、観光客誘致・PR戦略について学び異人館を訪問。(2008年1月)



西安の大気を守れ!

【中国・西安市における大気環境改善】

「中国・西安市における大気環境改善」研修は、草の根技術協力事業(地域提案型)として、国際協力機構(JICA)の委託を受け、京都市と共同で取り組んだものである。さらに、本研修は、3ヶ年計画のものであり、今回はその記念すべき初年度として、昨年10月に行われた、専門家による現地調査の結果を受けて実施した。

■ 西安からの来訪者

研修参加者の出身地である西安市は、唐の都長安として、現代の歴史の教科書にも必ず登場するほど日本とは関わりの深い都市であり、古代より人の行き来が盛んであった。また近年でも、始皇帝の兵馬俑を見るために、観光目的で訪れる日本人は後を絶たない。

そんな西安市と古くから関わりがあり、現在友好都市関係にある京都市と共同で、本研修を実施した。京都市のこれまでの大気汚染対策等の経験を移転することにより、西安市の大気環境改善に貢献し、両市の友好関係の更なる発展につなげることが主な目的である。

■ 発展と環境のはざま

京都市は本研修に非常に力を入れていただいた。その背景には、かつて京都市も経験した、大気汚染による深刻な問題の数々が、西安市において発現することを可能な限り食い止めたという、関係の方々



上) 関西空港からJICA大阪を経て、京都駅到着時の風景。

京都市側の関係の皆様より、心のこもった歓迎を受ける。

右上) 京都市南部クリーンセンターにて、施設紹介の説明を受ける。

右下) エコギャラリー新宿にて、市民向けの環境学習機器を実体験中。



の強い思いがあった。

現在中国は高度成長の真っただ中で、かつての日本の過ちを繰り返そうとしている。『発展と環境をどう両立させるべきか』研修を通じ、一貫して研修参加者がぶつかっていた課題である。研修参加者には、環境改善に取り組むという強い意志があり、その意義・重要性は深く認識していた。しかし、解決すべき課題はとにかく巨大で、複雑であり、目指すべき姿に向け、自らに許された範囲で、具体的に何からどのように手をつけるべきか、研修参加者が戸惑う姿は数多くの場面で見受けられた。

■ 日本の青空の美しさ

研修参加者はそれぞれ立場も職種も違っていた。しかし、皆日本のかつての姿

から現在に至るまでの軌跡に思い巡らせ、行政の取り組みにより、大気環境は改善できることを再認識し、その実現に向け、心を一つにしていた。そんな中で、一人の研修参加者から発せられた『現在の日本の青空はとても美しい』という言葉は、単に青空の美しさのみを表したのではなく、その奥にある多くの人々の汗と涙と努力を理解した上のものである。その言葉は、今回の研修が研修参加者に与えた効果を実感するには十分なものであり、同時に、研修の意義・重要性について、私の心に強く訴えかけるものがあった。

—国際交流部 部員 折井 耶澄

中国・西安市における大気環境改善

- ◎実施期間 2008.12.14～27
- ◎研修参加者 中国西安市において大気環境改善を担当する行政官 5名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA) 大阪国際センター
- ◎関係機関 京都市
- ◎目的 西安市の友好都市である京都市が、これまで進めてきた大気汚染対策等の経験を西安市に移転することを通じ、西安市の大気環境改善に貢献し、同時に両市の友好関係の更なる発展につなげること。

お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

京都市関係各所(国際化推進室・環境管理課・環境指導課・地球温暖化対策室・監理検査課・調整管理課・事業推進室・歩くまち京都推進室)、京都市南部クリーンセンター、京都市衛生公害研究所、京都市立池田小学校、京エコロジーセンター、京都タワー、堀場製作所、IHI、石炭エネルギーセンター、環境省、エコギャラリー新宿、大阪ガス 姫路製造所、大阪ガス 姫路ガスエネルギー館、ガスアンドパワーインベストメント 神戸ハーバーランドエネルギーセンター、神戸製鋼所

TOPIC

取材にドキドキ!

今回の研修では、来日時と東京日程の1日、そして、研修参加者が帰国後の行動計画を発表するまとめの日の計3日間、ベネ出版発行の『SWINGOO』という働く女性向けの雑誌の取材を受けた。テーマは『日本で学ぶ外国人』。プロの記者とカメラマンに写真を撮ってもらい、皆嬉しそうに恥ずかしそう、とても豊かな表情を見せていた。

まさか日本に来てそのようなことが待っているとは…。予想していた研修参加者などいるはずもなく、研修初日だけではなく、その他の研修日程にも取材が同行することを知ると、皆びっくりした様子であったが、同時にとても嬉しそうだった。

集合写真と個人写真を撮る段になると、特に女性陣は皆身だしなみを整え、体を少し斜めにして顔は正面を向き笑顔を見せ、自然で美しく写真に写っていた。

まさに予想外の展開であったが、日本の良い思い出として、全員の心に残ったようであった。



雑誌掲載された写真ではないが、プロカメラマンに撮っていただいた写真。

近畿工業(株)

篩・破碎機など製作 環境・リサイクル機械のメーカー
<http://www.kinkikogyo.co.jp>

「中小企業振興政策(基礎コース)」で訪問

同社は日本有数の破碎機メーカーである。破碎機の命であるカッターの技術開発を兵庫県と連携して行っていることから、官民連携の好事例として訪問した。中小企業振興政策を担当する行政官である研修参加者らにとって、今回の訪問は学ぶ点が多く、帰国後の業務に反映すべく、熱心に耳を傾けていた。講義の後、工場を視察させていただいたが、部品等が整然と並んでいる様子を見て日本企業の特徴である3S(整理、整頓、清掃)を実感していた。また、ロボットによる溶接は特に印象が強かったようである。若い社員が多く、漲る活気に研修参加者は元気をもらっていた。



工場視察では、ヘルメット姿も様になっていた。

旭電機化成(株)

プラスチック成型を基盤に、暮らしに役立つ商品を提供
<http://www.smile-asahi.co.jp>

「マレーシア初任行政官研修」で訪問

「みんなでハッピーになろう」を合言葉とする同社は、プラスチック成型を中心に、デザインから製造に至る受注生産事業と、暮らしに役立つ便利グッズ品の開発・販売事業を手がけている。大阪商工会議所主催の交流会で原守男専務にお会いしたのがご縁となった。訪問当日は、成型、塗装、組立、検査などの生産工程を拝見し、オリジナル商品の開発など経営管理について伺った。研修参加者達は、頻繁な打合せの中からアイデアを生み出し、テレビ会議を使った事業所との朝礼など、コミュニケーションを重視した経営スタイルに感銘を受けた様子であった。



真剣なまなざしで、プラスチック成型の説明に聞き入る研修参加者ら。

(株)WITHフローリング

人とフローリングの関わりを楽しむ者が我が社では最高の同士だ。
<http://www.with-f.com>

「マレーシア初任行政官研修」で訪問

「人とフローリングの豊かな関わりの実現」を目指す同社は、社名に“WITH(共に)”を置きフローリングとその仕事を通じて関わる全ての人を大切にするフローリング専門の施工会社である。同社小林社長は朝礼では必ず社長講和を行い、紙に直筆でつづった言葉を示しながら、社員の方に語りかけるなど、社内の人づくりにも重点を置いておられる。研修当日は、研修参加者を同社の社員と想定し、小林社長から朝礼を実際に受けるという模擬体験の出来る講義を実施した。日本式の朝礼を実際に体験した研修参加者は、職場職員への理念の共有方法について身をもって理解することができた。



朝礼式講義終了後の集合写真(前列左から二人目が小林社長)。

(株)小堀

京都の仏具製造、販売の老舗企業
<http://kobori.co.jp>

「中央アジア経済団体強化コース」で訪問

同社は、安永4年(1775年)創業、京都の仏具製造、販売の老舗企業であり、信仰にふさわしい気品と風格が求められる仏具を、厳選した素材と熟練した匠の技により創作し続けている。また、仏具工房での工程をインターネットでライブ中継するなど、伝統にとらわれない新たなビジネス展開においても、その取り組みは高く評価されている。研修参加者は、技術伝承の現場を視察するとともに、小堀進専務取締役からの「顧客満足を越えた顧客感動」を目指した経営方針の説明に大変感銘を受けていた。



京仏具工房を訪問して伝統工芸の技術を見学する研修参加者。

事務局
ニュース

シニアコースリーダー5名が活躍

PREXでは、2008年度は以下のとおり5名のPREXシニアコースリーダーに研修を担当いただいた。今年度も引き続き協力をいただく予定。

- ◎稲本治朗氏…元住友電気工業・元PREX出向者
「中国中小企業振興」、「ウズベキスタン・カザフスタン日本センター運営管理」
- ◎井上順氏…元サントリー、元PREX出向者
日系研修「貿易・マーケティング」、「救急・大災害医療」
- ◎末利鏡意氏…元大阪ガス、元PREX出向者
「ウズベキスタン・カザフスタン日本センター実務研修」
- ◎西村愛氏…元伊藤忠商事、元PREX出向者

- 「南・東欧中小企業振興」、「ベトナム日本センター実務研修」
- ◎井上久生氏…元パナソニック
「マレーシア観光開発」

研修参加者53名がホームビジットを体験

2008年度は、訪日研修30件中7件の研修で、日本家庭を体験するホームビジットを実施した。中央アジア、中米、中国、ベトナムの研修参加者ら53名が26の日本の家庭にお世話になり、日本の文化、生活を体験することができた。ホームビジットの実施には、言語交流研究所・ヒポファミリークラブにご協力いただいた。

受入家庭の皆様、ありがとうございました。

C O L U M N

更なる飛躍を目指して



PREXシニアコースリーダー
西村 愛

■ 今昔の感

本年、設立19年目を迎えるPREXは実施した事業の質・量共に、年々向上の一途を辿っています。関西経済連合会の中にあった設立準備室の一員として、揺籃期のPREXで井戸堀りの手伝いをし、又、数年前より再び事業の一端に関与させていただいている者として、PREXの当今の活動に感慨深いものがあります。

■ 温故知新

当初3部で発足した事務局は、その後の組織改変を経て、現在2部構成となっています。機能は多様化し事後の合理化も目覚ましいものがあります。ただそれが故に反って無機質な点がありはしないだろうか、PREXの設立を発起された先哲のお考えを反芻しながら、時折自らの行動を振り返るようにしています。

■ 知の宝庫

多分野の活きた情報がPREXには山積しています。新聞や書籍では得られぬ生の素材がごろごろしています。訪日した研修参加者の言動や所持品からも世界の経済や文化の移り変りが手にとるように判ります。これからの情報は必要に応じ適宜PREXより発信されています。宝の山の中でその恩恵を満喫しつつ、もっと広く皆さんと情報を共有できる方途はないかと模索しています。

■ 関西は元気

講義や見学で多くの企業のご協力を得ています。中堅・中小企業のお世話にもなりますが、ユニークな企業が沢山あります。独創的なアイデアで経営革

新計画に認定される企業などが然ります。関西の企業の元気を肌を感じています。「まいど1号」の打ち上げに産官学が手を携えているのは頼もしい限りです。

■ 拡がる輪

複雑な国際情勢の下で研修参加者も多様な内面を抱えている事が言葉の端々に現れます。複数の国の参加者から成る集団コースで国境を越えた共通テーマを論じ、帰国後、相互に連絡をとり合っている事を知ると、国際交流の実があがったと心強くなります。

PREXの構築した同窓会組織等のネットワークが一層有効に活用され、より充実した人材交流が実現されるよう期待が深まります。

■ 更なる発展

中期アクション・プランの下でPREXは新しく動き出しています。事業の手伝いに携わる者として、自らのスキル・アップに努め、PREXの更なる発展に微力を尽せたらと念じています。



「南・東欧中小企業振興セミナー」研修参加者らと
竹中庭園緑化を訪問(右端が筆者)。…2008年11月

PREXの
研修実績

2009年
3月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

● 研修累計(1990～)

406コース

● 受講者累計(1990～)

124カ国・地域 12,351名

【受入(訪日)研修 3,896名／
海外研修 8,455名】

● 2008年度実績

37件 799名

- 受入研修 30件(262名)
- 海外研修 6件(502名)
- 交流事業 1件(35名)
- 企画提案型研修 18件(48.6%)
- 新規研修 10件(27.0%)